

当院におけるIOSの使い方

麻生雅史
Masafumi Aso



「概要」

歯科のデジタル化が進む中で、IOSは特に注目されている分野である。診療の中でIOSの活用の幅を広げていくことで、精度の高い治療ができるだけでなく、スタッフや患者とのコミュニケーションツールとしても活躍できると考える。日々の診療で試行錯誤する中で、現在当院ではどのように活用しているかを報告する。

「内容」

歯冠補綴についてはインレー、アンレー、クラウンの内製を行うケース、コネクトを介してラボと連携をとりながら作製しているケースがある。また、アライナー矯正、インプラント治療についてもIOSを活用している。その中で患者とのコミュニケーションツールとしてIOSによるデジタルデータを利用している。

「考察」

IOSは歯冠補綴や矯正、インプラントなど幅広く活用できる有効な手段だと考える。特にカウンセリングにおいては視覚的に優れたデジタルデータが説明ツールとしても活躍する。また、データをその場ですぐに確認できるという点で、クリニック側にも患者にも大きなメリットになる。歯科技工士との連携ツールとして非常に便利であること、患者とのコミュニケーションツールとして有効な手段である。またそれによって院内スタッフとの連携も深まっていく。